

自己実現への道

第24回 - 運命を変える秘訣(その14) -

-強い信念は「病」さえ克服させる - 人間ほどタフに作られているものはない -

第二次世界大戦末期、ある若いアメリカ人兵士が敵軍の機銃掃射に巻き込まれ、5発の弾丸を浴び、瀕死の状態ですぐに軍の病院に運び込まれた。

入院は何ヶ月にも及び、86kgの体重は40kgにまで落ち込み、衰弱もひどく、立ち上がろうとしても、すぐに倒れてしまった。医師も全力を尽くしたが、回復の見込みもないように思えた。鏡を見た彼は、衰えきった自分の姿に失望し、生きる望みも失ってしまった。

変わり果てた自分の姿をみた彼は、昔の自分の姿を思い出した。だらだらと空しく過ぎて行く時間を少しでも活き活きとしたものにしたかったのだ。・少年の頃、スポーツで優勝したこと、テストで優れた成績をおさめてみんなから誉められたこと・その後も、観衆から拍手喝采を浴びたあの頃のこと、両親の誇らしげな笑顔、充実感、そんなものを思い浮かべていたのだ。

こんなことを繰り返すうちに、想像のもつ、共通の特徴に気がつくようになった。それは、何かに勝利をおさめたり、目的を達成するところを想像するたびに、いつもそこへ行き着く前に、心の中に成功する光景ができてあがってしまうことだった。成功の場面が「見えてしまう」のだった。そして、その結果、確固たる信念をもって、あるイメージを抱くと、何か人間の能力を超えたやりかたで、そのとおりのことが実現するように思えたのだ。

何しろ、考える時間はたっぷりあったので、彼は次第に想像と成功とが結びつくパターンとの間に関連があるのではないかと思うようになった。「祈り、信じれば、求めるものはすべて叶えられる」という聖書の言葉を覚えていた。強い信念に支えられた心のイメージは、本当に、不思議なパワーに支えられて実現へと向かって行く。

彼は思った。「回復するところを思い浮かべて、同時にそれを祈れば、実現するのではないだろうか」と。そう思ったとたん、猛然とやる気が湧いてきて、すぐさま実行に移した。

彼は家へ帰るところを想像した。自分で自転車を運転し、仕事をこなし、ごく普通の日常生活をする。そして世帯を持ち、ボランティア活動を行い、仕事で出世することも想像した。全身全霊で何回も想像を繰り返した。

「精神と肉体とは不可分で、どんなものも両者の間に入り込むことはできない。だから、精神が肉体にまさって、それをコントロールすることは可能だ。僕が回復すると思えば、その気持ちが徐々に肉体に働きかけるだろう」と彼は自分に言い聞かせた。

自分でも驚くほど希望が湧くのを感じた。医師も驚くほど、彼はみるみるうちに回復した。

現在彼は、幸福な家庭を築き、二児の父親になっている。

何年も前に病院のベッドで思い描いたとおりの、普通の幸福な充実した人生を送っている。

彼は、この世で最も効果のある治療法 - 強力なイメージと揺るがぬ信念 - を探り当てたと確信している。棺桶に片足を突っ込んでいた彼も、今は再び、活き活きとした人間の世界へ戻ってきたのだ。

体は、あなたのイメージを実現する。健康は自分が考えていることの反面鏡なのだ。